

 <p>オーテピア高知図書館 高知県立図書館/高知市民図書館本館 Kochi Prefectural Library and Kochi Municipal Library</p>	<p>目標（令和3年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ オーテピア来館者数 100万人 ■ 年間個人貸出点数 110万点 ■ レファレンス件数 3万件 	<p>実績（令和3年4～8月） [令和2年度年間実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ オーテピア来館者数 323,462人 [707,197人] ■ 個人貸出点数 483,635点 [1,018,409点] ■ レファレンス件数 12,233件 [26,530件] 	<p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 開館日1日当たりの個人貸出点数 <p>R3:3,869点 [R2:3,785点] (2.2%増)</p>	<p>資料・資料提供全体 1,132,725点(R3.4～8月)</p> <p>内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人貸出 483,635点 団体貸出 32,382点 分館・分室※ 546,682点 県立・市民移動図書館 65,490点 電子図書館（閲覧・貸出） 4,536回 <p>※分館・分室所蔵資料の貸出点数含む</p>
	<p>これまでの取組状況（令和3年8月末実績）</p>		<p>取組の成果・課題等</p>	

今後の改善・取組

1 地域を支える情報拠点機能の充実

(1) 資料・情報の提供

①資料

- 【R3資料購入費】182,597千円(県100,527千円、市82,070千円)
- 【資料受入点数】図書17,213冊、新聞152紙、雑誌1,993タイトル ※寄贈含む
- 【電子書籍】利用可能タイトル数:5,355タイトル 閲覧回数:3,106回 貸出回数:1,430回 有効登録者数(R3.8.31時点):1,941人

②貸出し・予約・リクエスト

- ・リクエストを受けた資料は積極的に収集し、入手困難なものは相互貸借を利用した。

(2) 高知県関係資料の収集・保存・提供

②保存

- ・(県)ミュージックテープに田岡典夫文庫(戦前の直木賞作家である同氏の寄贈資料で作家仲間との交流などにも触れることができる)の目録を登録した(5,446点)。
- ・(市)江戸時代後期の庶民文化がうかがえる日記資料『燈袋』289点の撮影と文字起こしを行った。

(1) 資料・情報の提供

①・開架については開館以降新しい資料を継続的に置くことができている、その点では利用者の満足度は高い一方、スペースの都合により、従来は開架に並べていた全集などを書庫に置かざるを得ないことから、苦情が来たケースが何度かあった。

・7月から読み上げ機能付き電子雑誌閲覧サービス「Kono Libraries」の試行を声と点の字図書館と共同で開始した。高知県電子図書館の利用は、コロナ前と比較すると倍以上となっているが、コロナ第1波直後に一気に5倍になった頃と比較すると半分以下となっている。

(2) 高知県関係資料の収集・保存・提供

②・(県)目録作成により利用者の利便性が高まるが、内容の一部について、公開にあたり判断を要するものがあり、公開には至っていない。

・(市)『燈袋』について、利用者に便利に検索利用いただくための文字起こしは順調だが、撮影は貴重資料の閲覧対応の合間を縫っての作業となるので、若干予定より遅れている。

(1) 資料・情報の提供

①・古い資料も可能な範囲で開架に出すようにする。また全集の場合は第1巻のみ開架に出すことにより、所蔵があることが分かるように工夫する。

・「Kono Libraries」については、R4年度の正式導入に向け、声と点字の図書館と共同で作業を進めていく。

・高知県電子図書館については、引き続き広報を行っていくとともに、県立高等学校におけるGIGAスクール端末配布に合わせて登録を働きかける。

(2) 高知県関係資料の収集・保存・提供

①・(県)公開または非公開とする部分を速やかに決定し、利用者向けに公開する。引き続き田中貢太郎(田岡典夫が師事)文庫の目録を作成する。

・(市)紙ベースのみの資料については、利用者・職員双方にとって利便性が高まるよう、引き続きデジタル化を進める。その際、優先順位も考慮する。

2 暮らしや仕事の中でのさまざまな課題解決への支援

(1) レファレンス・サービス

②利用ガイド

- ・館全体では、ブックリスト112種類、パスファインダー14種類をウェブ・サイトにて公開中。
- 【レファレンス受付件数】12,233件(うちビジネス支援:970件、健康安心防災:776件)

③連携

- ・レフェラルサービス実績 8件(調べもの・こども・健康安心防災各1、ビジネス5)

(2) 課題解決支援サービス

① ビジネス・農業・産業支援サービス

①資料

- ・データベース「日経BP記事検索サービス」を導入。
- ・データベース講習会「高校生ビジネスプラン・グランプリ」×「MieNa」(非来館)

③レファレンス

- ・連携先団体や図書館活用講座受講者からのレファレンスに随時対応。

② 健康・安心・防災情報サービス

①資料

- ・社会情勢や高知県の課題に即した資料を収集。高知新聞から防災・新型コロナウイルス関連記事を示し・ファイリング。専門機関からチラシやパンフレットを収集・配置し、利用者が今必要としている情報を提供。特に利用の多い資料は、参考図書として複本を購入。

③連携

- ・専門機関と連携し、パネル展示やセミナー、相談会等の共催事業を実施。7/25『高知市いきいき健康チャレンジ2021 応援講座～栄養編～』[連携:高知市健康増進課主催]ほか
- ・専門機関等が実施している関連イベント等の情報やパンフレットを集約・提供。

③ 情報リテラシー向上支援サービス

②利用ガイド

- ・研修や視察・見学の際に「オーテピア高知図書館ガイドブック」を図書館サービス説明資料として活用した。

④ 行政支援サービス

③レファレンス

- ・県移住促進課の協力を得て制作した図書館活用事例まんがによるレファレンス・サービスの紹介。

④連携

- ・市健康増進課「健康づくりお役立ちコーナー」ほか企画展示・パネル展示を多数実施。

(1) レファレンス・サービス

②・ブックリストについては、持参して来館する利用者がいたり、関係機関において配布しているものがよく出ているという話もあるなど、種類が増えてきたことで存在が浸透してきている。これらの配布を通じて、県民・市民の課題解決に貢献できている。引き続き新鮮な情報を提供するため、古いものについては、内容を更新する必要がある。

・同様に徐々に種類を増やしているパスファインダーについては、内容・構成を試行錯誤している段階。

(2) 課題解決支援サービス

① ビジネス・農業・産業支援サービス

①・新規データベースの導入により、ビジネス分野で需要の高い雑誌の最新号のプリントアウトが可能となり、利用者の利便性が向上した。

- ・データベース講習会は好評で、次年度以降の継続実施につながった。
- ・新規導入データベースや利用頻度の低いデータベースの周知が必要。

③・過去に受けたレファレンスを分館・分室も含めて共有することで、一定水準の回答につながっているが、より迅速な回答の要望がある。

- ・レファレンス協同データベースへの一般公開は未登録。

② 健康・安心・防災情報サービス

①・新聞記事を当日中に切り抜いて掲示するなど、最新の情報を提供できた。

- ・利用の少ない専門雑誌の企画展示を行いアピールした。常時周知が必要。
- ・担当課へ広報効果をPRし、次の連携に繋げた。一定専門機関との関係構築ができていくが、さらに働きかけが必要な分野がある。

③ 情報リテラシー向上支援サービス

②説明資料としてガイドブックを活用する中で、サービスごとに配布先に伝えたいポイントが整理できた。より効果的な配布方法の検討が必要。

④ 行政支援サービス

③利便性向上のため、庁内レファレンス専用のメールアドレス開設等の検討を要する。

④図書館を広報の場として活用1できることを知らない組織・機関がある。

(1) レファレンス・サービス

②・ブックリスト、パスファインダーとも、利用者の関心が高いテーマやニーズに沿ったものを作成・提供していくとともに、内容を適宜更新する。また、館内やセミナー等開催時に加え、関係機関における配布も行う。

- ・パスファインダーについては、より活用しやすいものとなるよう様式を見直ししていく。

(2) 課題解決支援サービス

① ビジネス・農業・産業支援サービス

①ミニ講座を含むデータベース講習会を実施予定。

③・迅速にレファレンス回答できるよう、決裁方法の見直し等を図る。

- ・回答フォーマットの統一を行い、速やかにレファレンス事例を登録・公開していく。

② 健康・安心・防災情報サービス

①看板や誘導サインを作成し、業界紙・専門誌の存在を周知する。

⑤「発達障害」「ひきこもり」等の相談会を実施する。

- ・課題解決や関連施策を担う機関・団体に向け、より重点的に図書館活用の提案・サービスの周知をする。

③ 情報リテラシー向上支援サービス

②単に関係機関・団体に送付するのではなく、図書館活用講座や担当者会で、図書館紹介の時間枠をもらえる場合などに説明用テキストとして配布する。

④ 行政支援サービス

③R3年度中に庁内レファレンス専用メールアドレス・電話番号を開設する。

④広報面での図書館の活用を促し、さらなる連携につなげる。

3 利用者に応じた図書館サービスの充実

(1) 児童サービス
 ①資料【受入冊数】1,985冊(雑誌・選定支援コーナー分は除く)
 ・教科書の改訂に合わせ、団体貸出セットの内容を見直し、調べ学習に役立つ図書の提供開始。
 ②展示 子育て応援コーナー本棚のリニューアル。おはなし会の場にも本を展示し、利用を促進。
 ⑦児童図書の選定支援
 ・**研修会等で選定支援をPR。市内の学校図書館支援員研修では選定支援を活用し選書会実施。**
 ⑨情報リテラシー
 ・「こどもとしょかんしんぶん」に本の探し方についての記事を掲載。
 ・7/23「知って！調べて！描こう★私の未来地図」(ジョブカフェこうち・県雇用労働政策課と共催)。

(2) ティーンズ・サービス
 ①資料
 ・リフレッシュや面展示を継続して実施(ティーンズ・コーナー所蔵資料約1万1千冊)。
 ⑦PR
 ・支援協力担当とともに学校を訪問し、サービス説明と合わせてオーテピアティーンズ部を広報。

(3) 多文化サービス
 ①資料
 ・外国語資料、国際交流関係資料、国際理解に関する資料、日本語学習者向けの資料、リクエストのほか、問い合わせのあった資料を収集・提供。国際交流員や連携団体の意見も参考にした。
 ⑤連携
 ・他機関主催の日本語教室参加者に対し、図書館活用講座をやさしい日本語を用いて実施。ブックリスト「SDGsってなんだろう?」の作成、その他既存のブックリストを提供し、図書館活用方法をPR。

(4) 図書館利用に障害のある人へのサービス
 ①資料
 ・布絵本、バリアフリーDVDを積極的に収集。大活字本、LLブックは引き続き全点購入。寄贈された布絵本を展示し、図書館見学やSNSで紹介。
 ・引き続き、バリアフリー資料のサンプルセット(さくらバリアフリー文庫)を市町村図書館へ貸出し。
 ②各サービス
 【宅配貸出】実利用者4人 利用件数13件 利用冊数49冊【対面音訳】実施回数延べ389回
 ④PR
 ・やさしい利用案内・各サービスチラシを作成し、関係機関訪問時に案内し配布。

4 連携・支援及び図書館の活用

(1) 市町村立図書館等への支援 **県立**
 ①人的支援【巡回訪問】32市町村延べ49回【依頼訪問】2市町村延べ2回【研修】8回109名参加
 ・感染症対策について、館内の様子を見ながら市町村職員とともに検討。
 ・訪問した図書館等についてブログで紹介。
 ・集合研修の際、事後ウェブに掲載できるよう動画を撮影。
 ②物的支援【購入冊数(移動図書館・協力貸出用)】2,530冊【物流取扱点数】49,494冊

(2) 高知市全域サービスの拠点 **市民**
 ③・学校図書館支援員研修会に講師として参加。
 ・教科書改訂に合わせた団体貸出セットの更新が完了。

(3) 県立学校図書館等との連携 **県立**
 ①協力【貸出冊数】20校632冊【訪問】16校16回【レファレンス貸出】24件【研修参加】4名
 ・ICT活用や探求学習に関する要望が寄せられたのを受け、貸出セットやブックリストを作成中。貸出セットは、県高等学校の協力を得て作成。
 ・**連携事業:高知県公立高校産業教育PRイベント** ほか

(4) 中心市街地活性化への寄与、周辺施設との連携
 ①中心市街地活性化への寄与
 ・全国高等学校観光教育研究大会のために図書館の観光支援についての動画作成、ウェブ掲載。
 ・7/31土曜夜市(協同組合帯屋町筋主催)に参加。
 ②周辺施設(教育・産業支援施設)との連携
 ・『2021お城下文化手帳』配布。図書展示「永遠の清流 仁淀川」(高知城歴史博物館との連携)。

(1) 児童サービス
 ①学校での調べ学習の要望に応えやすくなった。
 ②子育て応援コーナーから各分野の本棚へのスムーズな案内が必要。
 ⑦毎月利用があり、市内の学校図書館支援員研修の選書会後は新規利用者が増えた。一方、遠方の市町村へどのように支援を行うかが課題。
 ⑨共催事業では、調べもの講座や調べ学習をし、図書館見学では、学年や理解度に合わせた見学対応をすることで、基本的な図書館の使い方や本の探し方を伝えることができた。

(2) ティーンズ・サービス
 ①過去2年以内のティーンズ・コーナー所蔵資料は9割以上が貸出しされており、利用者のニーズに応えることができています。
 ⑦・ティーンズ部は募集を開始後、延べ21人が加入。現在は13人で活動中。
 ・新規部員の獲得と投稿実績がない部員の活動促進が必要。

(3) 多文化サービス
 ①関係機関の発行物で紹介されるなど、図書館が日本語学習に役立つことが認識されつつある。主要な外国語雑誌は収集し、即効性の高い情報を提供。利用の少ない雑誌を展示しPRしたが、今後も周知が必要。
 ⑤既存のコンテンツを活用し、バーチャル館内ツアー実施。図書館活用講座の参加者が後日利用登録し、実際の利用に結び付いた。

(4) 図書館利用に障害のある人へのサービス
 ①・資料紹介や布絵本の展示と資料の配架場所案内により、布絵本・大活字本の貸出点数が増加したが、LLブックの認知度は低い。
 ・さくらバリアフリー文庫の貸出しにより、市町村図書館でのバリアフリーの資料購入やコーナー新設につながった。
 ②スクイブや感染防止対策用機器の設置により、利用者と音訳が別室での音訳サービス提供ができ、コロナ禍でも継続的な利用につながった。
 ④サービスが必要な人に情報が届く仕組みづくりが必要。

(1) 市町村立図書館等への支援
 ①・ブログでの情報発信が、他の図書館との交流の機会が少ない市町村職員にも参考となっている(展示の方法や配架の工夫など)
 ・県立図書館からの情報にアクセスしにくい環境にある図書館がある。
 ・動画編集に時間がかかり、ウェブでの配信が追いついていない。
 ②専任職員が少ない図書館等では、積極的な利用につながっていない。

(2) 高知市全域サービスの拠点
 ③・研修会等を通じ、本館だけでなく、分館・分室についても直接的にPRできた。
 ・学校・児童クラブへの団体貸出件数 本館22件、分館室129件(8月末)。

(3) 県立学校図書館等との連携
 ①・県立学校用WebOPACの開設、Web予約サービスの開始が遅れている。
 ・県高等学校や高等学校振興課等との関係づくりが進んだ。
 ・ICT活用や探求学習を指導する教職員用の資料が少ない。
 ・中山間地域にある県立学校へのサービス説明等が遅れており、貸出依頼が少ない。

(4) 中心市街地活性化への寄与、周辺施設との連携
 ①・ウェブで左記動画を公開したことで、今後も恒常的に観光支援をPRできるようになった。
 ・こうち観光ナビ・ツーリストセンターとの連携が不十分。
 ・まちゼミが開催されておらず、まちゼミを通じた各店舗への働きかけができていない。
 ②連携イベント等の開催により、それぞれの施設の利用促進を図れた。

(1) 児童サービス
 ①ニーズの多いしかけ絵本のブックリスト作成。
 ②関連機関と連携し、チラシを充実。子育て関連のブックリスト作成と、子育て応援コーナーから館内各コーナーへの案内方法を検討する。
 ⑦遠方の市町村への支援方法を検討する。
 ⑨こどものリテラシー向上に資するよう、「こどもとしょかんしんぶん」に本の探し方について引き続き掲載する。

(2) ティーンズ・サービス
 ①さらに積極的に活用される蔵書構成を目指し、ティーンズのニーズ把握のため学校やティーンズ部に協力を呼びかける。
 ⑦・すべての部員の積極的な参加を促すため、希望する活動についてメールで聞き取る。
 ・県立学校との連携を担う支援協力担当とともに、学校訪問による直接的なPRを引き続き実施する。

(3) 多文化サービス
 ①資料を計画的に購入し、引き続き展示等でPRする。
 ⑤・館内の日本語表示をやさしい日本語にする。
 ・実施している共催事業を見直し、ボランティアの活用も検討する。

(4) 図書館利用に障害のある人へのサービス
 ①展示や出前図書館のほか、マンガによる解説書等やブックリストを作成し、更なる資料の周知と利用促進を図る。
 ②対象者にバリアフリーサービスチラシ・各サービスチラシを配布し、周知を図る。
 ④動画等の多様な媒体を活用し、行事等の機会を捉え、サービス対象者や施設職員等にPRする。

(1) 市町村立図書館等への支援
 ①・各図書館等の取組を含め、業務の参考になる情報をブログ・紙媒体等を活用して発信していく。
 ・動画編集しやすような研修の構成を検討する。
 ②職員が少ない市町村でも利用しやすいよう、改善の方策を検討する。

(2) 高知市全域サービスの拠点
 ③団体貸出等の利用方法が分かるパンフレットを作成し、学校へ配布する。

(3) 県立学校図書館等との連携
 ①・Web予約サービスの開始に向けて、利用マニュアルを作成し、学校へ案内する。
 ・GIGAスクールや探求学習の指導に関連する資料の収集を強化するとともに、ブックリストを作成する。
 ・中山間地域の県立学校への訪問を強化する。

(4) 中心市街地活性化への寄与、周辺施設との連携
 ①・こうち観光ナビ・ツーリストセンターを定期的に訪問し、意見・情報交換をする。
 ・各店舗への働きかけの方策を検討する。
 ②11/21お城下文化の日の開催を開催予定。